

令和元年度「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の事業評価について

事業の概要

東日本大震災によって、いまだ仮設住宅等における生活を強いられている地域があり、復興に向けての学習支援等が必要であるため、被災地における子供の学習環境の好転や仮設住宅とその周辺地域とを結ぶ地域コミュニティの復興促進を図る事業。

【こども部での対象事業】

- ・郡山市震災後子どものケアプロジェクト
子どもの明るく健やかな成長を促す環境整備を図るため、子どもや保護者等に対しての心のケア相談会、遊びと運動の実技に関する講演会や研修会等を開催する。
- ・地域子ども教室
地域の参画を得ながら、子どもたちに勉強・スポーツ・文化活動等の場を提供し、放課後の児童の安全で健やかな居場所づくりに取り組む。

【交付に必要な手続き】

「評価・検証委員会」を設置し、被災地における課題解決に向けての明確な目標設定や効果測定、事業の評価・検証を実施する。



上記事業は、「郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン」実施計画にも該当していることから、子ども・子育て会議において評価・検証をする。

各事業の目標等

【郡山市震災後子どものケアプロジェクト】

(1)目標

- ・子ども及び保護者が抱えている震災等に起因する心の不安を解消するとともに、事業をとおしてつながりを増やし、地域コミュニティの形成につなげる。
- ・未就学児童の運動等の状況を把握し、運動あそびをさせることにより、後の体力・運動能力を全国平均程度まで上昇させる。

(2)活動内容

- ・心のケアに関する相談会や、絵本の読み聞かせの実施
- ・運動実技講演会及び研修会の実施
- ・運動と生活習慣に関するアンケートの実施

(3)効果測定方策

- ・運動と生活習慣に関するアンケートの回答集計
- ・各種活動の参加者数の集計や実務者からの意見聴取

【地域子ども教室】

(1)目標

子ども教室における地域住民との交流や、各種体験事業の実施により、子どもたちが、地域住民との関わりを持ち、地域行事へ積極的に参加することで健全育成を図る。

また、子どもたちへの学習支援や読書活動を通して、自主学習や読書の習慣を身につけさせる。

- ・地域行事に参加した児童の割合 80%以上
- ・学習・読書の習慣が身に付いた児童の割合 80%以上

(2)活動内容

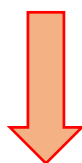
- ・公民館等が開催する行事への地域子ども教室入会児童の積極的な参加
- ・児童の学年に応じた適切な学習支援や読書時間の設定及び継続的な実施

(3)効果測定方策

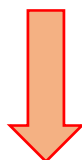
- ・入会児童及び保護者に対するアンケート調査の実施
(内容：地域行事への参加状況、学習・読書時間等)

令和元年度郡山市震災後子どものケアプロジェクト事業 評価・検証方法について

1. 事業実績を基に業務受託者が自己評価
(令和2年3月上旬：完了)



2. 受託者の自己評価を基に業務委託者（市）が評価
(令和2年3月中旬：完了)



3. 受託者・委託者の評価を基に、子ども・子育て会議に
おいて客観的な評価
(令和2年3月下旬)

郡山市震災後子どものケアプロジェクトに係る受託業務評価書

(令和元年度事業分)

令和2年3月 19 日

【受託法人名】

認定NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク

【受託業務名】

運動実技講演会及び研修会実施業務

【事業概要】

事業内容	子どもたちが自ら楽しんで体を動かし遊ぶことができるよう導くことができる 指導者(プレイリーダー)を養成し、日常的に利用する施設等において実践できるよう、以下の事業を行う。 ①講演会 運動あそびの指導者として必要な理論的背景を学ぶため、30 分程度の講義を受講する。 ②研修会 子どもたちの運動量の確保と運動あそびの技術向上のため、幼児期運動指針と郡山市版幼児期運動実践プログラムに基づく実技を学ぶ。 ③保育施設等を活用した親子の運動あそび 保護者が子どもとともに自宅で運動遊びを実践できるよう、保育施設等で親子に直接運動実技を指導する。																																																			
事業費	2,184,000 円(令和元年度)																																																			
意図	震災後、子どもたちの運動量が減少し、体重の増加や体力の低下が見られたことから、子どもの運動に関するエキスパートを養成し、子どもたちにフィードバックすることで、運動機会の増加や、十分な運動量を確保できるようにする。																																																			
対象	全市民																																																			
事業実施結果	講演会及び研修会参加人数:194 人 <table border="1"><thead><tr><th>月</th><th>場所</th><th>参加人数</th><th>月</th><th>場所</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>4</td><td>—</td><td></td><td>10</td><td>延期</td><td>-</td></tr><tr><td>5</td><td>ニコニコこども館</td><td>37</td><td>11</td><td>ニコニコこども館</td><td>10</td></tr><tr><td>6</td><td>ニコニコこども館</td><td>35</td><td>12</td><td>ニコニコこども館</td><td>10</td></tr><tr><td>7</td><td>ニコニコこども館</td><td>23</td><td>1</td><td>ニコニコこども館</td><td>14</td></tr><tr><td>8</td><td>—</td><td></td><td>2</td><td>ニコニコこども館</td><td>11</td></tr><tr><td>9</td><td>ニコニコこども館</td><td>54</td><td>3</td><td>中止</td><td>-</td></tr></tbody></table> 親子の運動遊び参加人数:43 人 <table border="1"><thead><tr><th>月</th><th>場所</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>6</td><td>尚志緑ヶ丘幼稚園</td><td>24</td></tr><tr><td>7</td><td>尚志幼稚園</td><td>19</td></tr></tbody></table>	月	場所	参加人数	月	場所	参加人数	4	—		10	延期	-	5	ニコニコこども館	37	11	ニコニコこども館	10	6	ニコニコこども館	35	12	ニコニコこども館	10	7	ニコニコこども館	23	1	ニコニコこども館	14	8	—		2	ニコニコこども館	11	9	ニコニコこども館	54	3	中止	-	月	場所	参加人数	6	尚志緑ヶ丘幼稚園	24	7	尚志幼稚園	19
月	場所	参加人数	月	場所	参加人数																																															
4	—		10	延期	-																																															
5	ニコニコこども館	37	11	ニコニコこども館	10																																															
6	ニコニコこども館	35	12	ニコニコこども館	10																																															
7	ニコニコこども館	23	1	ニコニコこども館	14																																															
8	—		2	ニコニコこども館	11																																															
9	ニコニコこども館	54	3	中止	-																																															
月	場所	参加人数																																																		
6	尚志緑ヶ丘幼稚園	24																																																		
7	尚志幼稚園	19																																																		

【事業実施結果による自己評価】

本事業は、子どもの保育・教育現場に従事する関係者への具体的支援であり、昨年度の評価同様に、下記のような成果が上がってきていることから、良好に実施された。

①講演会及び②研修会

運動遊びの指導者あるいは、保育・教育現場に従事する関係者にとって必要な理論が周知され、例えば、各現場で運動の機会を確保する、体力テストを確実に実施する、保護者の参加を促す、さらに家庭での取り組みの促しなどが行われるようになった。

③保育施設等を活用した親子の運動遊び

保育・教育現場に運動等の専門家が訪問、指導する事業は他にも行われているが、震災当初から同じメンバーが携わることにより、現場との連携がより密接になり、現場での遊びの重要性の認識が図られてきた。

今年度は実技指導講師の特性を活かして現場の声に基づいた指導を行い、実践につながる提案を行った。例えば、保育士である講師からはこどもたちの遊びを作り出す楽しさの表情がわかる実際の園児の反応を映像で紹介し、小学校体育教諭である講師からは仲間づくりや遊びの広げ方、プレイリーダーから友達へのつなぐ役割など実践を交えて指導を行った。

しかし、10月の台風接近に伴う延期や新型肺炎コロナウイルス感染拡大防止のため中止になり、後半の参加者減につながった。

【今後の課題等】

- ・支援学校教諭や学生の参加者が増えたが一方で保育士・幼稚園教諭の参加者が少なかった。土曜日でもシフト勤務で参加が難しいとの声から来年度は平日開催を試みたい。
- ・参加者から講義・実技内容の表題が同じだと園や施設に参加希望を出し難いとの声もいただいたため、新テーマを提案し、より多くの参加者を取り込む。
- ・遊びこそ本気が必要。一緒に楽しみ、信頼関係を深め、子どもの冒険心、競争心、わくわくするきもちを育て、こどもたちの心と体を豊かにしていく。プレイリーダーの必要性をより多くの人に伝える必要がある。
- ・保育施設から園への派遣を希望する声をいただいている。ニーズへの対応を検討する必要がある。
- ・本事業は非常に有用な事業と思われるので、引き続き市外や他県からの参加者を募ることも重要であると考えます。

<市記入欄>

【業務委託者としての評価】

受講者が自身の所属する施設において、本事業で学んだ遊び方等をフィードバックし、子どもたちの運動量を増進することで、子どもたちが運動あそびを通して体の動かし方を学ぶ機会を確保できていると認められる。

また、保育・教育現場に運動等の専門家が訪問し、親子遊びを直接指導することで、親子間のふれあいが生まれているとともに、その施設に通所する親同士のつながりも増え、地域コミュニティの形成にも役立っている。

以上のことから、本事業は良好に実施されたと認められる。

郡山市震災後子どものケアプロジェクトに係る受託業務評価書

(令和元年度事業分)

令和2年3月 19 日

【受託法人名】

認定NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク

【受託業務名】

絵本の読み聞かせ実施業務

【事業概要】

事業内容	ニコニコこども館、各地域子育て支援センター、ペップキッズこおりやまなど、郡山市が指定する子育て関連施設において、親子を対象に年間 96 回、1回 30 分程度の絵本の読み聞かせやわらべ歌、指人形劇等を実施する。 また、読み聞かせ者、及び子育て関連施設との連絡調整を行う。																																										
事業費	524,800 円(令和元年度)																																										
意図	幼児期に絵本を読み聞かせることにより、言葉や情操の発達を促す。 また、本事業をきっかけに、家庭における読み聞かせを普及し、親子の触れ合いがより深められるようにする。																																										
対象	市内各子育て関連施設に来所した親子																																										
事業実施結果	読み聞かせ実施回数:年間 96 回 参加人数:延べ 1,913 人(令和2年2月末時点) <table border="1"><thead><tr><th>月</th><th>回数</th><th>参加人数</th><th>月</th><th>回数</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>4</td><td>8</td><td>145</td><td>10</td><td>7</td><td>163</td></tr><tr><td>5</td><td>8</td><td>154</td><td>11</td><td>9</td><td>175</td></tr><tr><td>6</td><td>8</td><td>147</td><td>12</td><td>8</td><td>159</td></tr><tr><td>7</td><td>8</td><td>182</td><td>1</td><td>8</td><td>207</td></tr><tr><td>8</td><td>8</td><td>197</td><td>2</td><td>8</td><td>154</td></tr><tr><td>9</td><td>8</td><td>230</td><td>3</td><td>8</td><td>(未)</td></tr></tbody></table>	月	回数	参加人数	月	回数	参加人数	4	8	145	10	7	163	5	8	154	11	9	175	6	8	147	12	8	159	7	8	182	1	8	207	8	8	197	2	8	154	9	8	230	3	8	(未)
月	回数	参加人数	月	回数	参加人数																																						
4	8	145	10	7	163																																						
5	8	154	11	9	175																																						
6	8	147	12	8	159																																						
7	8	182	1	8	207																																						
8	8	197	2	8	154																																						
9	8	230	3	8	(未)																																						

【事業実施結果による自己評価】

本事業は、平成26年度から継続的に業務を受託しており、毎回多くの参加をいただいている。参加者からは、絵本選びのきっかけや読み聞かせによるコミュニケーションの重要性が伝わったとの意見をいただいた。

共働き家庭が多くなっている現状により、子どもの環境にスマホやゲームが浸透し、活字離れが進んでおり、絵本の読み聞かせ活動を今後さらに積極的に行わなければならない。また、絵本の読み聞かせは母子関係を構築する有効な方法であり、これらの事を参加者に認識させることができたのは大変有意義である。

震災から時間は経過しているが、変わらず育児に対する不安はあり、母子それぞれの特徴や個性に配慮しながら読み聞かせることにより、言葉や情操の発達への導きやさりげないアドバイスなどを提供するきっかけにもなっている。

以上のことから、この事業は良好に実施されたと考える。

【今後の課題等】

本事業は平成 26 年から継続的に業務を受託しており、各施設の来所者に定着した事業となっている。

参加者に合わせて、臨機応変に対応できるよう幅を広げた分野の読み聞かせを行う。

また、読み聞かせ団体と施設側とのスケジュール調整の難航もあり、読み手のレベルアップと共に読み聞かせ団体の新規開拓も視野に入れ研修、講習の開催の機会を設ける必要がある。次年度は1組新団体を増やして活動見込み予定となります。

<市記入欄>

【業務委託者としての評価】

読み聞かせ者の派遣先を複数の施設に拡散させ、それぞれの特色を活かした読み聞かせを実施することにより、事業に幅を持たせ、参加者に様々な読み聞かせを楽しむ機会を提供する等、施設への読み聞かせ者の派遣方法に工夫を凝らして開催しており、参加した保護者からは、「読み聞かせを通して、子どもとの係わり方を学ぶことができ、家庭での育児の楽しさが増した。」といった意見が寄せられており、家庭における情操や言語の発達手法として、読み聞かせが活用されている。

また、不特定多数の親子が同じ事業に参加することで、保護者間のつながりが生まれ、子育てに関する地域コミュニティの復興促進に役立っている。

以上のことから、本事業は良好に実施されたと認められる。

郡山市震災後子どものケアプロジェクトに係る受託業務評価書

(令和元年度事業分)

令和元年3月 19 日

【受託法人名】

認定NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク

【受託業務名】

「郡山市子どもの心と体の育ち見守り事業」運動や食事についてのアンケート調査実施業務

【事業概要】

事業内容	子どもたちの運動の状況、生活環境の状況、食事の状況についてアンケート調査により把握し、その内容を評価・分析する。 ・アンケート調査票の作成、印刷、配布、回収、質問への対応。 ・回収されたアンケート調査票のデータ入力、集計、分析及び評価。 ・分析結果及び評価結果を掲載した冊子作成及び各施設への配布。 ・個人アンケート結果をCDに移し、改善のための基礎資料として各施設へ配布。 ・アンケートに御協力いただいた施設等に対し評価結果報告会の開催。
事業費	9,900,000 円(令和元年度)
意図	子どもたちの普段の運動状況、生活状況、食習慣を把握し、分析することで、運動能力低下及び体重増加の解消など、子どもたちの健やかな育ちを見守るための事業展開の検討に必要となる基礎資料とする。
対象	郡山市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校に在籍する4歳～15歳の子ども(未就学児童については保護者が、小中学生は本人が回答。)
事業実施結果	①調査時期 2019年 5月～ 6月 ②データ集計 2019年 7月～ 10月 ③分析・評価 2019年 11月～ 2020年 2月 ④調査・分析結果 別紙のとおり 【アンケート調査実績】 ・対象施設数 204施設(保育所:88施設 幼稚園:31施設 小学校:56施設 中学校:29施設) ・対象者数 30,689人(保育所:2,108人 幼稚園:3,502人 小学校:16,372人 中学校:8,707人) ・回答者数 25,743人(保育所:1,597人 幼稚園:2,654人 小学校:14,980人 中学校:6,512人) ・有効回答者数 25,743人(保育所:1,597人 幼稚園:2,654人 小学校:14,980人 中学校:6,512人) ・有効回答率 83.9%(保育所:75.8% 幼稚園:75.8% 小学校:91.5% 中学校:74.8%)

【事業実施結果による自己評価】

本事業は、平成25年度からの継続事業である。一般のアンケートに比して、今回も約 84% の回収を得ることができ、一定の評価を得ていると推測される。

7年間の推移変化や別途実施の体力テストとの相関関係も一部判明し、震災が子どもたちに与えた影響を継続的にかつ多角的に把握することができた。この調査によって判明した事項は、報告書ならびに報告会、または研究者らによる研究調査発表等によって現場へフィードバックされ、現場の課題解決に一役をかつていると考えている。

本調査の結果によって、各現場において、幼児、児童、生徒に対して生活習慣を改善するアドバイスを行える貴重なデータとなっていることから、本事業は良好に実施できたといえる。

【今後の課題等】

小学校以外の関係機関からの返答率が徐々に減少している。現場の忙しい日常の中での実施が困難であることや、震災を経験していない教職員、保育士が増え、本事業の意義が浸透しにくくなっている状況も考慮し、調査報告などにより多くの情報や既知を盛り込む必要がある。

震災からの時間が経過し、直後とはまた別の状況が生まれつつあり、アンケートの内容が一部現状にそぐわない部分もあるが、10年間の継続評価を行うためには調査項目の変更は望ましく無いため、あえて項目は変更しない方針である。本事業がさらに有効に活用できるようにするため、施設側からの要望や活用状況などを聞き取る機会を設けることを検討する必要がある。

<市記入欄>

【業務委託者としての評価】

本事業は、震災後の子どもたちの普段の運動状況、生活状況、食習慣を10年にわたり、中長期的に把握・分析することで、子どもたちの健やかな育ちを見守るための事業展開の検討に必要となる基礎資料とすることを目的としており、受託者の自己評価にもあるとおり、7回目となる本年度のアンケート回収率は各施設の協力により83.9%と高く、市内の保育・教育施設に在籍している子どもたちの運動と食事についての実態をほぼ把握することができている。

また、郡山市の子どもたちのアンケートに御協力いただいた施設の関係者向けに調査結果報告会を開催し、分析結果及びそれに関連する事項について説明し、併せて各施設にデータをフィードバックすることで、各施設において震災に起因すると思われる子どもの運動能力の低下や生活習慣等の改善に関する取組を推進することができ、子どもがより学び、育つことができる環境を好転するための有意義な基礎資料となっている。

なお、今年度は、これまでのアンケート調査結果の経年変化に着目しており、除染前と比較すると運動・スポーツの実施状況が改善していることが分かる一方、外遊びの時間で「ほとんど遊ばない」状況は変化がないなど、項目別の経年変化の分析から子どもたちの現状に影響を及ぼしている要因の分析を始めたところである。

このようなことから、本事業は良好に実施されたと認められる。

郡山市震災後子どものケアプロジェクトに係る受託業務評価書

(令和元年度事業分)

令和2年3月 19 日

【受託法人名】

NPO法人ハートフルハート未来を育む会

【受託業務名】

臨床心理士による心のケア相談会実施業務

【事業概要】

事業内容	<p>① 子育てに関する心のケア相談会 年10回、当該月の第1月曜日に郡山市元気な遊びのひろば(ペップキッズこおりやま)において、そこを利用する保護者等からの震災等に起因するものも含めた子育てに関する相談を受ける。</p> <p>② 親子あそびと親ミーティング 年7回、ニコニコこども館において、保育士との親子あそびでストレスを解消しつつ、臨床心理士と親がミーティングを行い、震災等に起因するものも含めた心の不安等についての相談を受ける。</p> <p>③ 保育士からの子どもに関する相談会 年6ヶ所延べ12回、公立保育所において、保育士から、震災に起因するものも含めた心の悩みや気になる児童の保育方法等についての相談を受ける。</p>																																																																																				
事業費	1,799,344 円 (H31年度)																																																																																				
意図	臨床心理士が子どもの発達や問題行動、保育方法など、子育てに関する相談を受けることにより、震災に起因するものも含めた保護者等の心の不安を取り除くとともに、保護者や保育士が、子どもの心と体のすこやかな発達をより適切に促す。																																																																																				
対象	<p>① 郡山市元気な遊びのひろば(ペップキッズこおりやま)を利用する保護者</p> <p>② 就学前の子ども及びその保護者</p> <p>③ 公立保育所の保育士</p>																																																																																				
事業実施結果	<p>① 相談件数</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td></td></tr> <tr> <td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr> <tr> <td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>-</td><td>5</td><td>-</td><td>19</td></tr> </table> <p>② 参加人数 ()内は個別相談件数</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td></td></tr> <tr> <td>-</td><td>16(2)</td><td>-</td><td>27(2)</td><td>31(1)</td><td>-</td><td></td></tr> <tr> <td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr> <tr> <td>30(1)</td><td>16(1)</td><td>-</td><td>27(1)</td><td>-</td><td>中止</td><td>147(8)</td></tr> </table> <p>③ 開催箇所数 ()内は相談を受けたクラス数</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td></td></tr> <tr> <td>-</td><td>-</td><td>1(1)</td><td>1(1)</td><td>3(4)</td><td>2(2)</td><td></td></tr> <tr> <td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr> <tr> <td>1(1)</td><td>1(2)</td><td>1(2)</td><td>1(1)</td><td>1(1)</td><td>-</td><td>12(15)</td></tr> </table>	4月	5月	6月	7月	8月	9月		3	1	1	2	1	1		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	3	1	1	-	5	-	19	4月	5月	6月	7月	8月	9月		-	16(2)	-	27(2)	31(1)	-		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	30(1)	16(1)	-	27(1)	-	中止	147(8)	4月	5月	6月	7月	8月	9月		-	-	1(1)	1(1)	3(4)	2(2)		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1(1)	1(2)	1(2)	1(1)	1(1)	-	12(15)
4月	5月	6月	7月	8月	9月																																																																																
3	1	1	2	1	1																																																																																
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																																																															
3	1	1	-	5	-	19																																																																															
4月	5月	6月	7月	8月	9月																																																																																
-	16(2)	-	27(2)	31(1)	-																																																																																
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																																																															
30(1)	16(1)	-	27(1)	-	中止	147(8)																																																																															
4月	5月	6月	7月	8月	9月																																																																																
-	-	1(1)	1(1)	3(4)	2(2)																																																																																
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																																																															
1(1)	1(2)	1(2)	1(1)	1(1)	-	12(15)																																																																															

【事業実施結果による自己評価】

① 子育てに関する心のケア相談会 10回開催

発達や子育てなど、保護者が気になっていることを、気軽に相談ができる機会になっている。ごく早期の「気がかり」についての相談が多く、問題が深く進展する前の早期介入・早期予防として機能している。そのような早期の相談が必要とされる背景として、家庭や地域内での育児支援コミュニティ機能の低下が推測される。育児支援コミュニティ機能の低下の要因は、全国的な傾向としての核家族化・コミュニティの希薄化によるものと同時に、福島県特有の原発事故の影響による家族機能やコミュニティ機能の分断・脆弱化によるものと考えられる。当相談会が震災後に低下した育児支援コミュニティ機能を支える支援になっていると考えられる。

また当相談会をきっかけとして②の親子あそび親ミーティングを紹介したケースもあり、子育て支援の入り口として機能している。

一方、より問題が進展し、医療機関や療育センターなどの専門機関がすでに関わっているケースについての、セカンドオピニオン的な利用も数は少ないがみられる。こちらも気軽に相談できる当相談会の性質上から「この機会に、試しに相談してみよう」として利用されているようである。このようなケースの場合は、すでに関わっている専門機関に疑問を感じている場合もあり、相談者のニーズを受け止めつつ、専門家の意図も代弁し理解を深めていただくといった、地域資源の潤滑油としての役割もみられる。

全10回において、毎回必ず相談が発生しており、地域における子育て支援の一つとして定着し機能していると考えられる。

② 親子あそびと親ミーティング 6回開催

親子あそびでは、保育士の専門的な支援により、親子の良好な関係構築を促進し発達を促すことができた。親ミーティングでは、心理職の専門的な支援により、子育ての中で気になることを参加者同士で語り合い、お互いの育児を認め合い、アドバイスや情報交換をする場として構成することができた。

親子遊びや親ミーティングで気になる親子を見つけて個別相談につなげるという効果的な支援の流れができています。個別相談では家族関係や子育て・子どもの発達についてなど、より個別のニーズに対応した心理支援を丁寧に行っている。

他の地区から郡山に転居された方も多く参加されており、この地域で乳幼児の子育てを行う住民同士が繋がりサポートし合う場として機能している。

また数は少ないが震災に関連した話題もみられ、「震災後の支援」をかかげた当事業の特性上、震災に関連した話題についても、専門家による支援の下で、安心して話せる場として機能している。

③ 保育士からの子どもに関する相談会 12回開催

昨年同様に、6ヶ所延べ12回、保育所に臨床心理士が2名で出向き、保育士から相談を受け、クラスの様子を観察し、気になる子どもへの対応の仕方や、保育上の工夫点、保護者への伝え方などのアドバイスを行った。また同所に半年後に出向きその効果の検討を行った

が、おおむね改善されていた。保育士は自分の保育に自信を持って取り組みさらにスキルアップへとつながっていた。

震災後、「発達が気になる子」の増加で児童精神科の発達外来の受診は、どこも長期に待たされる現状は引き続き変わらないが、子どもの成長は待たないである。原因がわからないまま集団生活になじめず保育者の指示に従えないその子どもを、どう養育していけばよいか工夫せざるを得ない。臨床心理士が観察し見立てと対応の助言を保育士に行うことによって、現場の保育士は有効に保育することができる。そうした現状に資するものとなっている。

近年、県内でも虐待の相談件数が増加し、乳幼児の生活の場である保育所がその兆候をつかみ適切に判断して関係機関に通報し虐待状況からの救出を図る役割を担うことが望まれている。この事業によって保育所に入った臨床心理士と保健師が、保育所からの相談を受け虐待の可能性を察知し保護することができたケースもあった。

【今後の課題等】

① 子育てに関する心のケア相談会

相談会がより多く活用されるようペップキッズのスタッフと連携を強化し、相互にサポートしあえる工夫をすることが今後の課題となる。

② 親子あそびと親ミーティング

定員は15組であるが、会場の広さとしては「8組程度が適切な広さ」であり「13組では狭い」と報告がある。2グループに分かれる親ミーティングでも6名以上(2グループの総数では12組以上)の参加になると「時間内に話すことは難しい」との報告がある。会場を広くしスタッフを増やすか、定員を少なくし回数を増やすか検討することが今後の課題。

③ 保育士からの子どもに関する相談会

二人の臨床心理士で複眼的にクラスの力動をとらえて、個別の事例をどのように扱えば有効かを検討している。そのような丁寧な支援システムで成果を上げているが、より多くの子どもたちを支援に乗せてより多くの保育士を支援できるよう、一か所で複数のクラスを観察することが求められてきている。適正な時間配分及びクラス数の検討が課題である

<市記入欄>

【業務委託者としての評価】

本事業は、子ども、保護者及び支援者の総合的な心のケアを目的としている。

子育てに関する心のケア相談会は、ペップキッズこおりやまにおいて継続的に実施しているため、子どもを遊びに連れて行くと同時に気軽に相談できる環境として、来所者に浸透してきたと認められる。

親子遊びと親ミーティングについては、毎回定員を超える参加者となっており、子育て中の保護者にとって、子育ての悩みの相談や保護者同士の情報共有などができる有意義な場となっている。

保育士からの子どもに関する相談会については、発達障がいやその疑いがある児童が多くいるクラスにおいて、保育士の悩みを聞き、児童を観察・把握した上で、児童へのかかわり方やクラス運営、保護者へのアプローチ等について、それぞれの保育士や保育所に合わせたアドバイスを受けることができた。その結果、保育士の悩みの解消や保育の質の向上、児童の健全な成長・発達につながっている。

上記のとおり、家庭における子どもが学び育つ環境が好転できるよう、心に不安を抱える保護者等に対しきめ細やかなケアをすることができているとともに、親同士の交流により地域コミュニティの復興に寄与していることから、本事業は良好に実施されたと認められる。

放課後地域子ども教室事業

放課後等における子どもたちの安全、安心な居場所を設けるとともに、地域住民の参画を得て、学習や体験活動、交流活動に取り組むため、放課後地域子ども教室を開設している。各子ども教室では、地域の行事への参加や、独自の企画を積極的に実施しており、子どもたちの新たな体験活動の場を提供している。

地域子ども教室一覧

R2.3月現在

子ども教室名	開設年月	使用施設	登録児童数(人)	安全管理員数(人)	開所日、開所時間
湖南小	H19.4月	余裕教室	28	16	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜日から金曜日 ※閉所日：土日、祝日、お盆期間 12月24日～1月7日 ・学校開校日：放課後～18時30分 ・長期休業日：7時30分～18時30分 ※上記は標準的な開所時間
熱海小	H20.4月	余裕教室	27	17	
安子島小	H28.4月	特別教室棟倉庫	27	14	
三和小	H28.8月	南校舎集会室	37	26	
御代田小	H29.1月	余裕教室	51	22	
高倉小	H29.4月	余裕教室	17	21	
白岩小	H30.1月	余裕教室	31	14	
御館小	H31.4月	余裕教室	40	25	
宮城小	H31.4月	余裕教室	33	21	
河内小	H31.4月	河内ふれあいセンター内	20	23	
合 計			311	199	



湖南子ども教室
(冒険広場)



取組内容

○学習・読書活動

各子ども教室において、毎日1時間程度、自主学習の時間を設け、安全管理員の見守りの下、学習や読書に取り組むとともに、地域住民やボランティアによる絵本の読み聞かせなどを行った。

○体験・交流活動

子ども教室名	活 動 内 容
湖南小	・冒険広場 ・ボランティアのお手伝い
熱海小	・紙芝居、手遊び
安子島小	・座禅体験とお話し会 ・流しそうめん ・親子星空観察会 ・段ボール工作
三和小	・公民館主催事業（食育講座、ポッチャ体験） ・地域の合唱隊と交流会 ・一人暮らしの高齢者へのメッセージカードの作成
御代田小	・クラフト手芸
高倉小	・農業センター見学
白岩小	・人権教室
御館小	・海老根和紙秋蛍灯ろう作品作り ・グラウンドゴルフ交流大会 ・工作（ペン立て、水ヨーヨー）
宮城小	・木工教室
河内小	・料理教室 ・紙飛行機の作り方講座



地域子ども教室事業評価について

1 アンケート調査結果

R2.2月調査

子ども 教室名	登録 児童数 (人)	回答者数 (人)	地域行事への参加について				学習・読書習慣について								
			地域行事への参加の有無		今後の地域行事への参加希望		家庭での学習・読書習慣の 定着の有無		子ども教室・家庭 での学習時間 (1日平均、分)			子ども教室・家庭 での読書時間 (1日平均、分)			
			有	無	有	無	有	無	平日		土日	平日		土日	
									教室	家庭		教室	家庭		
湖 南	28	17 (61%)	11 (65%)	6 (35%)	15 (88%)	2 (12%)	13 (76%)	4 (24%)	31	23	47	7	15	21	
熱 海	27	26 (96%)	16 (62%)	10 (38%)	25 (96%)	1 (4%)	23 (88%)	3 (12%)	28	24	38	10	13	21	
安子島	27	20 (74%)	13 (65%)	7 (35%)	16 (80%)	4 (20%)	15 (75%)	5 (25%)	29	21	34	2	6	7	
三 和	37	21 (57%)	15 (71%)	6 (29%)	19 (90%)	2 (10%)	18 (86%)	3 (14%)	18	28	31	5	11	18	
御代田	51	43 (84%)	21 (49%)	22 (51%)	40 (93%)	3 (7%)	36 (84%)	7 (16%)	50	26	48	8	12	18	
高 倉	17	16 (94%)	3 (19%)	13 (81%)	10 (63%)	6 (38%)	8 (50%)	8 (50%)	38	24	43	4	11	15	
白 岩	31	26 (84%)	16 (62%)	10 (38%)	23 (88%)	3 (12%)	13 (50%)	13 (50%)	32	19	30	5	8	11	
御 館	40	35 (88%)	16 (46%)	19 (54%)	35 (100%)	0 (0%)	27 (77%)	8 (23%)	33	23	25	4	13	18	
宮 城	33	28 (85%)	17 (61%)	11 (39%)	25 (89%)	3 (11%)	10 (36%)	18 (64%)	38	10	43	3	13	14	
河 内	20	8 (40%)	3 (38%)	5 (63%)	6 (75%)	2 (25%)	3 (38%)	5 (63%)	16	8	19	1	7	13	
合計	311	240 (77%)	131 (55%)	109 (45%)	214 (89%)	26 (11%)	166 (69%)	74 (31%)	34	21	37	5	11	16	

2 目標設定

- (1) 地域行事に参加した児童の割合 80%以上
- (2) 家庭での学習・読書の習慣が身に付いた児童の割合 80%以上

3 効果測定

- (1) 55%
- (2) 69%

4 事業評価(案)

本事業は、放課後等における子どもたちの安全、安心な居場所を設けるとともに、地域住民の参画を得て、学習や体験活動、交流活動に取り組むことを目的としており、各子ども教室において、地域行事への参加や、ボランティアによる学習支援など、独自の企画を積極的に実施した。

各教室において、夏休みを中心に、地域住民や公民館との連携により、様々な体験活動や地域行事への参加を行い、地域コミュニティの形成に役立っている。目標の達成にはいたらなかったものの、今後の地域行事への参加希望は89%であることから、子どもたちと地域住民とのコミュニティ形成のため、子どもたちが地域行事への関心を持つきっかけづくりができたと考える。

また、毎日、宿題や自主学習の時間を設け、安全管理員の見守りのもと、学習活動に取り組み、また、地域住民やボランティアによる絵本や紙芝居の読み聞かせを実施した結果、子ども教室及び家庭における学習、読書時間については概ね確保されており、目標の達成には到らなかったものの、学習や読書習慣の定着に一定の効果を果たしたものと考える。

以上のことから、本事業はおおむね良好に実施されたものと認められる。